

## 描かれる家族の関わりと家族イメージの形成

### —NHK高校講座家庭総合と関連する番組の分析を通して—

Formation of family image based on representation of family life and family involvement  
- An analysis of NHK senior high school integrated home economics television programs-

三沢 徳枝<sup>1</sup>

<sup>1</sup>佛教大学教育学部

Tokue Misawa<sup>1</sup>,

<sup>1</sup>Faculty of Education, Bukkyo University

96 Kita Hananobou-machi, Murasakino, Kita-ku, Kyoto-City, Kyoto, 603-8301 Japan

キーワード：家族の関わり，家族のイメージ，メディアリテラシー

Key words : Family involvement, Family image, Media literacy

#### 抄録

本稿ではアーカイブ高校家庭総合と関連する内容の番組を，家族の関わりと生活設計に関する表現と番組構成の変化を社会的な背景との関連で分析し授業での活用を示した．番組では経済危機のあった2008年以前は，家族の多様性への受容と社会の一員としての子どもの権利意識が取り上げられた．2009年以降は，子育てや子どもの自立，ワークライフバランス，DVなど家族の問題を地域で支え合い支えられる生活の仕組みを住民が主となりつくる共生社会の方向が見られた．番組の構成は，講義中心からディスカッション，ロールプレイ，ドラマ，ライフストーリー等，視聴者が間接的に参加する構成に変化していた．映像と個人の具体的な経験を対象化させ，視聴者が経験と知識を基に判断し，批判的に視聴できるリテラシーを育てるために，社会的背景を理解し客観的なデータを読み込む指導が必要である．

#### 1. 目的

現代は子どもが家庭生活について考え，家族のイメージを描きにくい時代ではないだろうか．単身世帯の増加や離婚，再婚が増える等家族の個人化と多様化が見られる．またDVなどの家族の問題への介入が求められるようになり，家族やライフスタイルは個人に傾倒した傾向が承認されるようになった．家族の外に対しては個人の自由と平等を説き，内に対しては夫婦間，兄弟姉妹間などの不平等を内包している構造が明らかである（辻村，2011）<sup>[1]</sup>．

本研究ではTVアーカイブ高校講座家庭総合と関連する番組を視聴し，家族との関わりに関する表現がその時代背景でどう変化したのか，番組の構成とともに分析し明らかにすることを目的とした．

近年の高校家庭科教科書の家族観には，多様な

家族や家族観についての記述が見られる（楽木，2008）<sup>[2]</sup>．教科書では個人へのクローズアップ傾向とそれへの不安と危惧の記述が見られる．自分の生活を自分で創造する力を示しつつ，結婚しない不自由やパートナーと暮らすことを前提とする記述があることが明らかである（楽木，2008）<sup>[2]</sup>．

また家庭科の教材としてTV番組やイラストなどから「家族の表情や活動」による影響の受け易さで個人差があることが分かっている．しかし個人の特定の経験はイメージ情報の影響を受けにくい（柳，2008）<sup>[3]</sup>．イメージ情報による対象の共通理解が得易いという特徴があるが，それに対する感じ方や受け止め方の多様性を認め個人の具体的な経験を対象化させる指導上の工夫が必要と考えられる．

現在は学校放送番組や動画クリップ，デジタル教材が容易に視聴・活用できる環境にある．しか

し家庭科では番組をどのように活用されるのかについての研究は少ない(永田他, 2017)<sup>[4]</sup>. また目的を持った主体的な情報の選択・収集を経験する手段として, その有効性を検証し, 批判的精神を持って情報を吟味する姿勢はみられない(鈴木, 1998)<sup>[5]</sup>.

ICT活用による教育番組の利用においては, メディアの社会的メッセージを選択的に受け取り, 自分の既得知識や生活との相互の関連の中で情報価値を再創造する主体的学習過程を作り出す必要がある.

ではTVアーカイブ番組の高校家庭科とその関連番組では, 多様化する家族と個人主義的な傾向にある家庭生活をどのように表現しただろうか. 高校家庭科の教科書では2008年頃から家族観の揺らぎが見られる(楽木, 2008)<sup>[2]</sup>. その前後から時代の背景とともに教育番組として高校家庭の番組はどう変化したのか, 家族イメージを形成する教材として検討する必要がある.

## 2. 方法

### 2.1. 視聴期間と検索・閲覧

2019年8月1日~7日に番組を2回ずつ視聴した. 閲覧した番組は, 2003年放送~2017年放送のNHK高校講座・家庭総合の番組と高校家庭科の学習内容に関連して活用することが考えられる内容の番組で「となりの子育て 教えてますか? お金のこと」と「COOL JAPAN ~かっこいいニッポン家計」である.

### 2.2. 分析対象と分析方法

家庭総合の16番組とそれに関連する番組を分析対象とした. 複数回放映されたものもあるが, そのうちの1回分を分析した. 視聴者は高校生であるが, 分析対象の内2番組は小学生・中高生・成人を対象としたものである.

映像と音声, 構成について年代ごとの変化に注目し, 記述の中で特徴的で変化の見られるものについて質的内容分析を行った. 「出演者」「番組中に示された表や図など」「番組中のVTRなどの映像・音声」「構造・構成」「内容・説明」を検討した. そして個への傾倒と多様化する家族との間のゆらぎの面から家族との関わりを分析する項目として, 「親・家族」「友人」「人との関わり」「モノとの関わり」「団らん」「コミュニケーション

ン」「資源へのアクセスと活用(人的資源)(物的資源)」「金銭や時間」「リスクに備える」で分類した. また将来の自分の生活設計の分析では「自立」「将来のライフスタイル」を分析項目として作成した. それぞれ場面ごとに注目した発言や映像, 動作等や番組中に示された図表を記録した.

## 3. 結果

### 3.1. 家族との関わりに関する表現の変遷

現代の家族は個への傾倒があり, 多様化する家族を認めながらも, 様々な家族の問題が発生し家族とは, 家族の絆とは何かが問われている. こうした揺らぎは高校家庭の教科書では2007年~2008年を境に見られるので, 時代背景と家族との関わりや将来の生活を創造する生活設計に関して番組でどう表現されたのかをこの前後の年代で分けて分析した. 以下に番組の概要と家族との関わり及び将来の生活設計の分析結果を年代順にまとめた. 再放送された番組は初回の年度で表記している. 分析した番組例を示し, 以下の太字は番組名を示した.

#### (1) 家族との関わり

##### 1)2003年~2008年

友人や家族との関わりが描かれ, 家族の絆については出演者の食事や会話などの生活場面を通して描かれ, 特に家族との食事場面や手伝いのシーンがあり, 食事と会話, さらに家族の絆について登場した出演者が語る場面が見られた. 友人とは将来や進路のことを話す場面があった.

また通学途中のコンビニのごみ箱等が写され, 食の安全, 規制や法律, 環境への配慮について問題提起された.

家計の個別化や個計化を通して家族との関わり方の変化を示していた. 家族は共通のお財布だけでなく, それぞれがお財布を持ち, 家族が個別のお金との関わりが増えたことを表していた.

番組例として2005年の「**高校講座 家庭総合 家庭科学習と日々の生活**」があげられる. 高校生が自分の生活を見つめ記録をつけることから始まり, VTRや写真を基にディスカッションし, 視点を変える体験をしている. 番組の講義では多面的な視点や文化的背景への気づきと多様な価値があること, 生活を見つめなおすことの大切さを示した. 視聴者に対して, モノと人に支えられている

生活を自分の視点だけで見ていないか、固定した見方で見ていないかという問いかけをしていた。

## 2)2009年～2014年

家族の問題から家族の絆を考えるという点からDVや引きこもりなどを取り上げ、社会全体で取り組まなければならない家族の問題があることを示した。さらに家族の絆をつくる方法は一つではないが、大切なのは共にはたらき共に苦勞することであると教示していた。また、互いに助け合い問題の解決方法を考える家族という描かれ方が見られた。

2014年の番組では、子どもの自立と親の役割とは何かについて、地域活動の例から考える内容が見られた。高校生の生活的自立に関して、母親が今まで子どもに衣食住の生活に関わることをやらせてこなかったことを後悔するコメントがあった。一方で親子の関わり方について、子育ては子どもの自立を支援することという説明があった。

家族のニーズと家計の管理の面では子どもに家計の現状を考えさせるという教示があり、家族とお金のやり取りを子どもに知らせることの大切さの指摘が見られた。さらに女性の働き方と家計管理などの関連、家族との関わりや家族の絆のつくり方、支え合う社会の仕組みづくりと社会参加についての内容が見られた。

ワークライフバランスの面では、家族との時間をつくり、仕事と両立できるように仕事を選ぶ時代になったことを教示していた。

番組例として2011年の「**ともに暮らすという幸せ～地域社会と福祉**」では、ある市の地域の取り組みを紹介するVTRと参加する市民のインタビューが放映された。福祉の意味や地域社会で参加する仕組みについて出演者同士のディスカッションを通して考え、地域でどんな行動ができるのかを具体的な場面のVTR視聴から提案していた。視聴者には互いに助け合い、暮らしをより良くするために現在の地域の取り組みをヒントに各自が考えることを提起した。

## (2)将来の生活設計

### 1)2003年～2008年

人とモノと社会とつながり社会を支える一員としての自分という見方を教示していた。2004年の番組では、もし希望の道に進めなかったら？という

問いかけから始まり、将来の生活設計として社会責任や家庭責任を果たす意味が説明された。人生の節目とライフステージの過程には多くの人が直面する課題があり、人それぞれその時期は異なるが自分に合った生活設計を考えようという展開が見られた。キャッシュレス化の進展と家計を把握する必要性、年金や社会保障制度などの知識を持つことやリスクへの備えの必要を示す内容があった。

2008年の番組では、自立とは何かができるだけでなく、社会への関心と環境への配慮、お金のことも含めて自分で判断し、人との関わりでキッチンとした態度をもてるか、状況や相手に合わせての関係づくりや助け合って生活できるかという問いかけが見られた。

番組例としては、2008年の「**高校講座 家庭総合 家庭科学習と日々の生活**」があげられる。ミニドラマの導入で高校生の一日の生活を振り返り、家庭科学習がどのように生活に関わっているのかを知る内容だった。実践例としてホームプロジェクトをVTRで紹介する中に、高校生から家族への感謝のコメントがあった。また一人暮らしの若者の心配をする母親のコメントも映された。番組では生活的自立のために必要な生活リテラシーがどれほど身につけているか、自立度チェックの紹介をしていた。

### 2)2009年～2014年

2009年～2011年の番組では生活の質を豊かにする生活設計という視点が示され、職業選択のポイントとして目標や夢を持ち実現に向けて努力することや家族のことを考えることがあげられた。家庭で将来のために目的をもって貯金することを教育することと、日本の家計管理の特徴と女性の働く環境や保育環境の問題との関連が描かれた。

自分らしく生きることを考える方法としてライフストーリーの紹介やいろいろな生き方の例として成人の職業選択の紹介があった。

一方社会で支える仕組みと支えられる高齢者の生活について、地域住民が考え行動し問題解決に導けるような地域づくりや誰でも参加できる仕組みの必要性が示された。

2014年の番組では、お金の使い方と仕事をする意味は状況や価値観で多様であるとした説明している。お金を稼ぐのは大人になってからという母

親の語りが映された一方で、契約の説明もあった。バランスの良い自立とは何か、子育てについて講師の教示があった。

また高校生にとって自立とは何かという問いかけに対して、自分・家庭・地域・社会の図や自立度チェックを紹介し、バランスの良い自立について視聴者に考えさせていた。さらに目標設定と意思決定の積み重ねが自分なりの生き方を決めると説明があった。

子育ての悩みに対しては、地域のサポート支援の紹介など、大学生が地域の家庭で子どもと関わる姿が描かれた。親と子の関わりの方を変えることや子育ては子どもの自立を支援することという説明があった。

さらに将来に備えての貯金やクレジットカードと通信販売の仕組みを理解し、生活費がどれくらいかかるか計画的な見通しをもってお金を使うべきという教示が見られた。

番組例では2009年の「**高校講座 家庭総合 最終回 新しいライフスタイル**」をあげる。家庭科シアターから始まり、高校生がインタビュアーとなって様々な職業の成人や地域で活動する大学生と住民へのインタビュー及びそれを見た出演者のディスカッション、やりたいことマップの説明で構成された。大人になるのは楽しいのか？という問いかけや職業の選択とライフスタイルの確立、ワークライフバランス、地域社会の一員として地域とどう関わるか等について、視聴者はインタビューや出演者のディスカッションを通して考える。そして番組では自らの人生設計マップ作りを通して家族や地域と関わりながら目標を設定し生活設計の計画を具体的に考えるように展開している。

(3)家族との関わりと生活設計の表現の変遷に関連する社会の出来事や法律の制定

児童に関する権利条約採択(1989年)と人権教育のための国連10年(1995年~2004年)が始まっている。このような時代背景から2003年以降に放映された番組を分析し表1に表した。

1)2003年~2008年

2003年に家庭科は2単位必修となり、同年には少子高齢化社会対策基本法が成立した。

2003年の高校講座家庭総合の番組では「**自分らしく生きよう**」等、子どもの権利意識について問題提起や将来の生活設計について考える手順を教示する内容があった。また「**子どもの人権を考える**」では世界の子どもの状況から子どもの権利意識の問題を提起した。将来のことを考えていますか？と問いかけ、社会を支える一員として生活を見つめなおすことから自分らしい生き方を考えようという道筋を示した。

2004年には、児童虐待防止法が改正されて児童虐待の定義が見直されている。2004年の番組では「**自立のための経済学**」と「**ライフスタイルと経済計画**」において、家計の個別化や個計化という変化から、家族とお金との関わり方の変化を表した。経済的自立とは何かを考え、税金の使い方に関心を持って各自の意見を反映させるべきという提言があった。

2005年の番組では生活には多様な価値があり人との関わりから新たな発見があるとして、多面的な視点をもつことが大事であるという生活を見つめる視点に関する内容が見られた。「**家庭科学習と日々の生活**」では自分の生活の記録や写真を撮って客観的に視点を変えて自分の生活を見つめなおす必要性が示された。

また同年、人権教育のための世界計画がスタートし、介護保険法改正と障害者自立支援法が施行されている。「**子どもの人権**」の番組では、世界や日本の子どもの人権、子どもの生活に関する現状について問題提起があった。

2008年はリーマンショックによる金融危機があった。同年の番組では、自立と生活リテラシーに関して、家庭科学習の学びを实践で活かせるかという問いかけがあった。生活スキルだけでなく意思決定力やマネジメント力の必要性が示されている。「**家庭科学習と日々の生活**」では、生活場面で家庭科学習が関わっていること、ホームプロジェクトの紹介とともに食事や会話などの生活場面を通して家族の絆を描き、自立とは何かを考える内容だった。

2)2009年~2014年

2009年の「**新しいライフスタイル**」ではワークライフバランスについて取り上げ、生活を豊かにする生活設計という視点が示された。また2010

表1 高校家庭総合と関連する番組、社会の出来事や制定・施行された法律

放送日・時間(20~30分)	タイトル	出来事や制定・施行された法律その他
		*平成元年 1989年「児童に関する権利条約」(子どもの権利条約)採択
		*平成7年 1995年「人権教育のための国連10年」スタート(～平成16(2004)年12月31日) *「第4回世界女性会議」で「北京宣言及び行動綱領」採択
2003年6月26日 2003年7月31日	高校講座 家庭総合 子どもの人権を考える 高校講座 家庭総合自分らしく生きよう	SARSの世界的流行、振り込め詐欺(オレオレ詐欺)横行 少子高齢化対策基本法、次世代育成支援対策推進法の制定。厚生労働省の高齢者介護研究会が「2015年の高齢者介護—高齢者の介護を支えるケアの確立について—」を報告 労働者派遣法改正(2004年施行)。派遣可能期間の延長と製造業への労働者派遣解禁
2004年1月15日	高校講座 家庭総合自立のための経済学	アメリカで狂牛病発生、鳥インフルエンザの流行、新潟県中越地震
2004年1月22日	高校講座 家庭総合ライフスタイルと経済計画	児童虐待防止法改正され、児童虐待の定義の見直し、通告義務の拡大など
2005年4月7日	高校講座 家庭総合家庭科学習と日々の生活 様々な視点をもつ	福知山線脱線事故、耐震偽装問題 介護保険法改正。介護予防重視
2005年6月23日	高校講座 家庭総合 子どもの人権	障害者自立支援法、障害者に対する福祉サービスを一元化。利用者に応じた負担2006年4月1日より施行。高齢者虐待防止法。 平成17年 2005年「人権教育のための世界計画」スタート(～平成21(2009)年)
2007年1月27日再放送		賞味期限改ざんなど食品偽装、能登半島地震、新潟県中越沖地震
2008年4月24日	高校講座 家庭総合家庭科学習と日々の生活	中国製冷凍ギョーザ事件他食品の異物混入、リーマンブラザーズ破綻から金融危機 平成20年 2008年「世界人権宣言」採択60周年
2009年3月5日	高校講座 家庭総合新しいライフスタイル	新型インフルエンザが大流行、中国・九州北部豪雨、兵庫県西・北野豪雨
2010年1月9日	となりの子育て 観てますか?お金のこと	宮崎・家畜伝染病「口蹄疫」被害、iPad/ツイッターの流行
2010年8月12日再放送	高校講座 家庭総合 最終回 大学生の地域活動への取組み、ミニFMラジオ番組制作	子ども手当制度施行。子供・子育てビジョン。少子化社会対策基本法に基づく大綱。 平成22年 2010年「人権教育のための世界計画」の「第2フェーズ行動計画」スタート(～平成26(2014)年)
2011年4月4日	高校講座 家庭総合自分らしい人生ってなんだ?～生き方の選択～	3.11東日本大震災M9.0(震度7)東電福島第一原発事故
2011年5月13日	高校講座 家庭総合苦あれば楽あり～家族の絆～ DVや児童虐待について加害者と被害者の話、支援者の話	民法改正。親権の一時停止制度を創設。未成年後見制度を見直し。 平成23年 2011年「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関」活動開始 「児童に関する権利条約(子どもの権利条約)の通報手続きに関する選択議定書」採択。「人権教育および研修に関する宣言」採択
	引きこもりの青年の話	
2011年7月15日	高校講座 家庭総合 支え合う社会を目指して～福祉システム～ 家族に介護が必要になったときのサービスの選択を体験	
2011年7月22日	高校講座 家庭総合 ともに暮らすという幸せ～地域社会と福祉～	
	高校生が地域でどんな行動をしていけばいいのか	
2011年1月15日(44分)	COOL JAPAN ～かっこいいニッポン家計	*2012年子ども・子育て支援法
2014年4月2日	高校講座 家庭総合どう生きる?今どうする? 様々な家族の生活がある	伊豆大島で土石流災害(台風被害) 生活困窮者自立支援法。 消費税8%に増税
2014年6月26日	高校講座 家庭総合さあ、どんな親になろう? 地域活動への参加	広島土砂災害(平成26年8月豪雨)、御巣山噴火、平成26年豪雪(関東甲信地方を中心とした大雪) 過労死等防止対策推進法。子供の貧困対策に関する大綱
2014年9月25日 2015年2月16日 2017年2月20日再放送	高校講座 家庭総合 私とお金と幸せ	

年の「私とお金と幸せ」では、生活設計とお金の使い方について様々な価値観や今後のキャッシュレス時代について触れ、家庭でも金銭教育の必要があることが示された。

2010年の「家庭総合 最終回」では、地域における共生社会の方向性を示し、地域で誰もが参加する仕組みを表した。同年には子ども・子育てビジョンや少子化社会対策基本法の大綱が制定され、子ども手当制度が施行された。人権教育のための世界計画の行動計画(2010年～2014年)が始まった。

2011年は民法改正で親権の一時停止制度が創設され、未成年後見制度が見直された。「児童に関する権利条約(子どもの権利条約)の通報手続きに関する選択議定書」「人権教育および研修に関する宣言」が採択され「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関」が活動を開始した。2012年には子ども・子育て支援法が制定(令和元年改正)された。

2011年の番組では、「自分らしい人生ってなんだ?～生き方の選択～」で将来の生活設計をこれまでのライフストーリーから振り返り、生き方を考える例として複数の成人の職業選択の例を紹介している。「苦あれば楽あり～家族の絆～」では家族の絆を現在の家族の問題から考え、地域社会で支える仕組みと地域社会への参加について取り上げた。また「支え合う社会を目指して～福祉システム～」「ともに暮らすという幸せ～地域社会と福祉～」では、高齢者を社会で支える仕組みや福祉の意味について、地域住民が考え行動し問題

描かれる家族の関わりと家族イメージの形成

解決に導けるような地域づくりが提起されていた。

さらに日本の家計管理の特徴と女性の働く環境や保育環境の問題との関連から「COOL JAPAN へかっこいいニッポンの家計」は、家計簿をつけるのは女性が多く、貯める意識が高い一方で内職をする女性の働き方と家庭生活を通して、働く環境と子どもを預ける環境の不備を浮き彫りにした。キャッシュレス化と価値の多様化を踏まえてライフイベントと経済計画の面から生活設計について考える内容が見られた。

2014年は自立支援策の強化を目的とする生活困窮者自立支援法、子どもの貧困対策に関する大綱が成立した。

自立と大人になることについて、自分と社会との関わりや子どもの自立を支える親の役割の面から考える内容の番組があった。「どう生きる？今どうする？」では大人になるということと自立の意味を問い、バランスの良い自立について、自分・家庭・地域・社会の図で示された。また「さあ、どんな親になろう」では、親は何ができるのかを、子どもの自立と関連して考えさせた。子どもの自立と親の役割について子どもの自立を支援することとして表された。

### 3.2. 番組構成の変化

番組がどのような構成をしているかを視聴者の学習体験の面で分類し表2に示した。番組の内容とその変化について述べる。

#### (1) 番組構成の変化

2003年～2005年の高校家庭総合の番組は、講師による講義を中心に構成され、それ以降の年代においてはインタビューやVTRが多用され、ロールプレイ、ドラマ、ライフストーリー等、視聴者が間接的に参加する構成に変化していた。

講義中心の構成では内容を視聴者が受動的に受け取る。全体のまとめとしての教示や問題提起から視聴者がそれぞれ内容を深めることが期待されていた。またインタビューやワークショップ、出演者のディスカッションは間接的、疑似的な体験である。視聴者は番組のテーマを自分の生活に引き寄せて考えることになる。ロールプレイやドラマ、漫画などストーリー性のある構成では、その視聴後に視聴者がどのような感想や気づきがあったのかを分かち合う必要がある。

批判的な視聴態度をもって番組を視聴するメディア・リテラシーの面からは、番組中に示された客観的な統計データを踏まえながら、VTRで放映されたインタビューや地域の実践の取り組み例などを視聴者が自らの経験と知識を基に評価する必要がある。

### 4. 考察

本研究ではTV番組の高校講座家庭総合と併せて視聴することが予想され、内容の関連性のある番組を家族イメージを形成する教材として検討した。家族イメージについては、2008年以前では、自分の生活を振り返り、多面的な視点をもつという教示があり、子どもの人権条約等、社会の動きに関連して子どもの権利意識についての問題提起や社会を支える一員として、自分らしい生き方を考える内容が見られた。税金の使い方や家族とお金との関わり方で家計の個別化や個計化を示し、将来的に社会責任や家庭責任を果たすこと、年金や社会保障制度などの知識と意見を持ち反映させるべきと提言されている。

このように多様性への受容と社会の一員としての子どもの権利意識が社会的背景にあり、番組全体に反映されていると見られる。

2009年以降では、金融危機などの社会の変化があり、動きとして「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関」の活動や子育てビジョン、少子化社会対策基本法の大綱が成立した。しかし家族の現状に対応した法制度の改正は進んでいないという指摘(辻村, 2011)<sup>[1]</sup>が示すように、番組の内容においても個人の生き方の多様性への対応を個別的問題として表している。

番組では家族の問題を家族の絆の再生、子どもの自立と親の役割の面から再び捉えなおすことを示していた。一方で家族の問題を家族だけでなく地域で支え合える生活の仕組みをつくる取り組みを映し、これからの社会の方向を考えさせる内容を示していたと考える。また日本の女性の働く環境や保育環境の問題がある。ワークライフバランスや生活の質を豊かにする生活設計と金銭の教育、意思決定力やマネジメント力を育てる教育の必要がある。それらの問題に対して家庭科学習から得

表2 番組構成の分類と番組例

番組構成の分類	番組例
講義中心	講師による講義中心で視聴者の考える助けとしてデータやVTRの紹介があり、全体のまとめとして問題提起や教示をしている。
ディスカッションとインタビュー	番組の導入で出演者のディスカッションやインタビューがあり、視聴者自らの生活に引き寄せて考えることを促す構成である。問題提起とともに、評価やチェックの基準となる表を示し、VTRでは考える手立てを示している。
ドラマや漫画	これまでの生活を振り返り、これからの将来を考えるドラマや漫画があり、視聴者にライフステージごとに変化する生活の事象を疑似的に体験し自分に引き寄せて考えさせている。インタビューと出演者のディスカッションでは多様な価値と意見があることを表した。視聴者が人生設計を家族や地域と関わりながら目標をもって計画を立てられるように、人生設計マップやケアプラン作成などが提案されていた
ワークショップや体験のVTR, ロールプレイ	ワークショップや体験のVTR, ロールプレイを通して間接的に体験し、投げかけられる問いかけにイメージをもって考える構成である。
ライフストーリー	自分のこれまでの生活事象と経験を振り返り、これからどうありたいかを考えるためにライフストーリーを導入した。あわせて人生の選択モデルとして成人へのインタビューのVTRを示した

られる知識と実践での効果的な活用が出来る実装の検討が必要と考える。

番組の映像による「家族の表情や活動」と視聴者個人の具体的な経験を対象化させるという点で、視聴者の視点をリフレーミングする働きかけが必要であろう。メディア・リテラシーの面から、視聴者は番組の政治経済的位置づけや社会的影響力について考えられること、そして自らの経験や時代背景が視聴の選択行動に影響することを意識することが求められる。視聴者の経験と知識を基に、客観的に判断し批判的に視聴できるように番組中の客観的な統計データを読み込み、さらに関連する資料を用意するなど、社会的背景を理解した上で視聴の選択行動ができるように授業時の準備と指導が必要であろう。

## 5. 要約

アーカイブ高校家庭総合の番組から、家族の関わりと生活設計に関する表現と番組構成の変化を時代背景との関連で分析し、授業での活用を示した。

2008年以前は、家族の多様性への受容と社会の一員としての子どもの権利意識に触れていた。2009年以降は、子育てや子どもの自立、ワークライフバランス、DVなど家族の問題に対し家族の絆をどう作るのか、家族の問題を地域で支え合い支えられる生活の仕組みを住民が主となりつくる共生社会の方向が示されていた。

番組の構成は、講義中心からディスカッション、ロールプレイ、ドラマ、ライフストーリー等、視聴者が間接的に参加する構成に変化した。映像と

個人の具体的な経験を対象化させ、視聴者が経験と知識を基に判断し、批判的に視聴できるようにリテラシーを育て、考える枠組みを変える指導の工夫が必要である。

### 付記

本研究は2019年度第2回NHK番組アーカイブス学術利用トライアルによりアーカイブ番組の提供を受けました。

### 引用文献

- [1] 辻村みよ子編著. かけがえのない個から人権と家族をめぐる法と制度. ジェンダー社会科学の可能性第1巻. 岩波書店. 2011, p.1-19, 213-232.
- [2] 楽木章子. 高校家庭科教科書に表れた家族観の変遷—戦後から現在まで. 岡山県立大学保健福祉学部紀要. 2008, p.15, 33-43.
- [3] 柳昌子. 絵画化された「家族」教材の解釈の多様性. 日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集. 2008, 51(0), p.15.

- [4] 永田智子・山本亜美・村田晋太郎. 小学校家庭科における学校放送番組活用のための手立て初等教員養成課程大学生による指導案の傾向と課題. 日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集. 2017, 60(0), p.83.
- [5] 鈴木真由子. 家庭科教育における生活情報. 新潟大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要. 1998, (17), p.23-30.

### 参考文献

- 市川昌. 批判的視聴態度とテレビ文化学習における意味作用-環太平洋アジアのメディア教育と文化社会学的接近-. 教育メディア研究. 1996, Vol3, №1, p.39-45.
- 鈴木みどり. 子どもがテレビから学んでいる価値. 教育と医学, 1986, 34(9), p. 857-864.
- 田島祥・坂元章. 教育番組に含まれる価値観に関する内容分析. 教育情報研究. 2012, 第28章第3号, p.3-13

(受付日：2020年2月29日，受理日：2020年3月13日)

### 三沢 徳枝 (みさわ とくえ)

現職：佛教大学教育学部 特任准教授

大阪府立大学大学院人間社会学研究科博士後期課程単位取得退学。  
専門は教科教育学。

主な著書：新しい教職教育講座 教科教育編8 初等家庭科教育 ミネルヴァ書房